

調べ学習マップ「地震に備える」

東京書籍 社会3・4年下 教科書 P24~29 「地震からくらしを守る」で活用できます。

1
ここを選択

ホーム > おすすめ! 調べ学習マップ

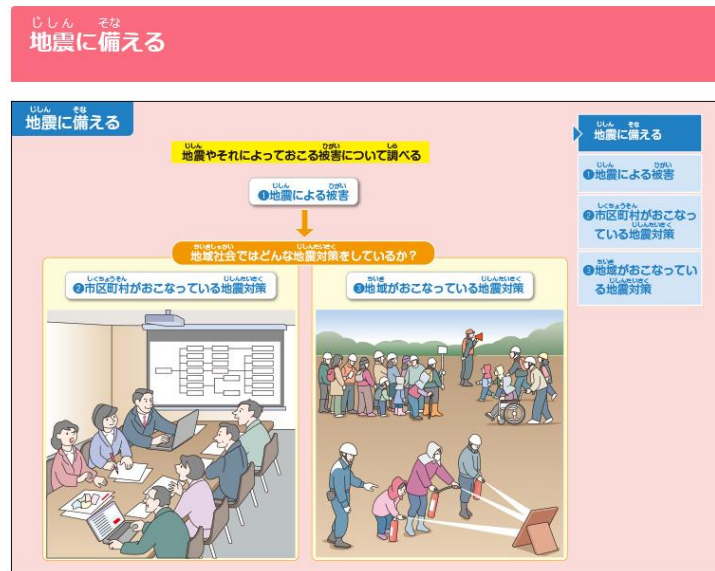
おすすめ! 調べ学習マップ

2
ここを選択



< もどる

3
学習マップ「地震に備える」が表示されます。



クリック/タップで
詳しい情報や写真
を見ることができます。

2017年7月配信 特集コンテンツのご紹介



地震に備える

クリック/タップで
詳しい情報や写真
を見ることができます。

社会3・4年下 教科書 P24~29
「地震からくらしを守る」
で活用できます。

市区町村がおこなっている地震対策

市役所 での防災対策

災害がおこったときの対応を決めておくためになにをつくる?

防災計画を立てる

警察と消防が協力

ハザードマップの作成

町になにを設置している?

防災倉庫 貯水槽

防災設備 LED

地震のあとの津波に備えておこなっている取り組みは?

津波避難ビル

避難場所の指定

避難場所

海抜を示した標識の設置

津波避難ビル
Tsunami evacuation building

地震に備える

地震による被害

市区町村がおこなっている地震対策

地域がおこなっている地震対策

津波避難ビル

つなみの避難ビル

津波が発生したとき、すぐににげられる高台がない沿岸地域などで、近くの住民などが緊急に避難できる場所として、市区町村が指定する建物です。地震に強く、津波による浸水にたええられるだけの高さや構造を備えているなど、一定の基準を満たす建物が指定されます。

公共の施設だけでなく、民間のビルやホテルなども指定されています。また、市区町村が新しく津波避難ビルをつくり、ふだんは集会所や資料館、図書館などとして活用する場合もあります。

地震がおこり、津波警報が出されたり、弱いゆれが長く続いたりするなど、津波のおこる危険性が高いとき、津波避難ビルの入口が開かれ、中に避難できるようになります。多くの津波避難ビルには、子供、旅行者、外国人などにもわかりやすい標識がつけられています。

ほとんどの場合、津波避難ビルは一時に避難するための場所であり、避難生活を送るための場所ではありません。ゆれがおさまり、警報が解除されるなど安全が確認されたあとは、避難者は状況に応じて、避難場所を離れる必要があります。

防災倉庫

ぼうさいそうこ

災害がおこったときに備え、必要なものを保管しておく倉庫です。国や都道府県、市区町村、町内会などが、小中学校や保育園、公園、公共の建物、避難所などに設置し、管理しています。東京や大阪などの都市部では、高層マンションに防災倉庫の設置を義務づけている場合もあります。

防災倉庫には、火事がおこったときのための消火器や持ち運びができるポンプ、救助をおこなうためのシャベル、パール・のこぎり・ジャッキ（重い物をおし上げる道具）などの大工道具や投光器（特定の方向を強く照らす照明器具）などがおととまきのための加圧空気やガスが入れられています。その他に